

農業の魅力伝え 地域を活性化

体験会開催／農作業の様子をSNS発信

紀北町のグループ「森農人」



【三重】地域おこし協力隊員や農業者で構成する北牟婁郡紀北町赤羽の地域活性化グループ「森農人」は、今年1月から農業体験会の開催や、SNSを利用して農業の魅力発信を通じて地域農業の活性化に取り組んでいる。

「農業の魅力伝える取り組みのきっかけになったのは、地域おこし協力隊として同町の魅力発信に取り組んでいた同グループの前川あかねさん、農家の減少や耕作放棄地の増加など農業を取り巻く多くの問題を知ったことから、他の協力隊員とも協力することも地元の農業者の協力も得て、同グループを設立した。

グループの前川あかねさんが、農家の減少や耕作放棄地の増加など農業を取り巻く多くの問題を知ったことから、他の協力隊員とも協力することも地元の農業者の協力も得て、同グループを設立した。

「農業の魅力伝える取り組みのきっかけになったのは、地域おこし協力隊として同町の魅力発信に取り組んでいた同グループの前川あかねさん、農家の減少や耕作放棄地の増加など農業を取り巻く多くの問題を知ったことから、他の協力隊員とも協力することも地元の農業者の協力も得て、同グループを設立した。

「農業の魅力伝える取り組みのきっかけになったのは、地域おこし協力隊として同町の魅力発信に取り組んでいた同グループの前川あかねさん、農家の減少や耕作放棄地の増加など農業を取り巻く多くの問題を知ったことから、他の協力隊員とも協力することも地元の農業者の協力も得て、同グループを設立した。

注目の逸品
読者プレゼント

【三重】「ときわ漬」2月まで1本1本丁寧に

け「は、尾鷲市向井地域 手作りしている。

に伝わる大根を使った尾 合成着色料や保存料は

鷲名物の漬物だ。 一切使用せず、昔ながら

収穫したての新鮮な大 根を1週間塩漬けし、尾

鷲産かつお節やかつお ぐ、大根のうまみ、甘み

粉、酢、昆布、砂糖、唐 がぎゅっと凝縮されたご

辛子などで1週間本漬け 物で、生産量が限られて

をして完成する。 いるため、あまり市場に

同地域の女性グループ は出回らない売り切れ必

「向井ときわ会」(徳永 至の商品となっている。

美保代表)が毎年、大根 今回は「ときわ漬け

の収穫が始まる12月から 0004 津

尾鷲市 ときわ漬け

大根のう



者が所有していた遊休農地の再生だった。現在30町の水田で水稲と4町の畑で同町特産品「くき漬け」の材料となるヤツガシラを栽培している。

また、日々の農作業をユーチューブやインスタグラムを利用して月5回ほど発信するとともに、田植えや稲刈りなどのイベントも開催し、県内外から家族連れなど約30人が参加した。

イベントとは別に月1回のペースで除草作業や耕起作業など日々の農作業を体験できる体験会も開催、「気軽に農業に触れることができる」と好評を得ている。

前川さんは「自分たちもまだまだ経験は浅いが、楽しく農作業をして

田原市農業委員会とJA

相談会



【岐阜】県稲作経営者会議(中島博隆会長)は、「子ども食堂」をはじめとする「子どもの居場所」への食料支援や居場所に関する相談対応などのサポートを行う「子ども居場所応援センター」の

「子どもの居場所」

「子ども居場所」の相談会を開催し、関係者から、県内

全国農業



2025年(令和7年)

12月5日 金曜日
月4回金曜日発行

農地を活かし 担い手を応援する
農業委員会ネットワーク機構

発行所 全国農業会議所

〒102-0084 東京都千代田区二番町9の8
中央労働基準協会ビル ©全国農業会議所2025
お問い合わせはホームページ
(<https://www.nca.or.jp/shinbun>)まで

お申し込みは、お近くの農業委員会へどうぞ

水稻直播に
キヒゲン R-2フロアスル
播種時の種子消毒、発芽率向上、鳥害防止に!
米澤化学株式会社 京都市南区唐橋声町14番地
TEL.075-681-9536(代)

1カ月平均気温

低い確率(%) 50以下 40 40 50以上 (%) 高い確率(%)

お天気クイズ
北米や南極で発生する、激しい降雪や強風で吹き飛ばされた雪で、視界が非常に悪くなる状態を何というでしょうか。
答えは3面欄外右上へ

今週の記事から

愛媛県は、デジタル実装を進め県内の地域課題解決につなげようと「トライアングルエヒメ2・0」を始動。481件の応募から選ばれた22件のプロジェクトを支援する。キヤノンマーケティングジャパン(株)とキヤノンITソリューションズ(株)(いずれも東京都港区)が取り組む「高性能な映像を活用した農地の遠隔管理プロジェクト」の実装検証現場取材した。

愛媛県 農地遠隔管理プロジェクトを実証

カメラ、土壌センサーを設置

情報をクラウドに蓄積

同プロジェクトでは、農地の映像や音声、環境データ、作業風景などを記録・可視化して業務効率化や技術継承へ活用し、生産物の品質や収量の向上へつなげることをねらう。

情報の記録と可視化の要となるのは、高性能なカメラの製造で有名なキヤノンの技術を最大限生



濃度といったデータを収集。収集された情報はクラウドに蓄積され、スマートフォンやパソコンから閲覧できる仕組みだ。ネットワークカメラの操作もスマートフォンやパソコンから行える。光学32倍ズームが可能で、カメラから100m離れた場所の葉の病変など、と遜色ない解像度で映し出される。

さらに、圃場の作業者が音声通話可能なウェアラブルカメラを携帯しながら作業することで、遠隔地にいる指導者が映像を見ながら的確に指示を出すことが可能だ。映像は全て録画され、1カ月間クラウドに保存される。有用な動画はダウンロードして保存することもできる。

技術継承・標準化めざし活用

実装検証は今年8月から、松山市の相原バラ園と日高農園の協力で行われている。

相原バラ園 動画が優良なマニュアルに年間1千品種以上のバラ苗を生産する相原バラ園では、技術継承・標準化と生産性向上をめざす。同園で販売する苗は、圃場で台木として成長させたノイバラの株元にT字の切り込みを付け、育てたい品種の穂木を差し込んで活着させる。

代表の相原尚子さんが作業する場合9割以上は適切に活着するが、経験の浅い作業員では6割しか活着しなかったこともある。活着しなかった苗は



だった。園で作業の手元エアラブルカメラ。翌日の朝ながらライブ配信、作業の点検改善すべき点。また、基礎作は録画して

数字こそまづ、里命内な哉音こ